

安藤は
東京で

— 広島、佐世保、東京 —

敗戦から 70年 戦争下の 子どもたち

●司会：安藤紀典（小論文講師）
3月10日、4月12日、5月25日と度重なる大空襲の下を何とか生き延びました。

入谷は
佐世保
で

●講演：入谷清英（画家）
父は職業軍人で、長崎県佐世保の鎮守府勤務。6月29日に米軍機の空襲を受けました。8月9日は長崎への原爆投下後のきのこ雲を、佐世保の山中の防空壕から目撃しました。



入谷清英「日の出」

安藤・入谷・板東、私たち3人は高校の同窓生で、70年前の1945年に戦争が終わった時、4歳の幼児でした。戦争下で子どもたちはどのように生きていたか。幼児ゆえ、記憶はあまり確かではありませんが、それでも覚えていることはいろいろあります。

板東は
広島で

●講演：板東道美（画家）
父は職業軍人で、広島の参謀本部勤務。8月6日の原爆では、中心から少し離れた山かげの宿であったため、爆風で吹き飛ばされましたが命は無事でした。望遠鏡で直後の市内の惨状を見ました。



板東道美「Une fenêtre F50」



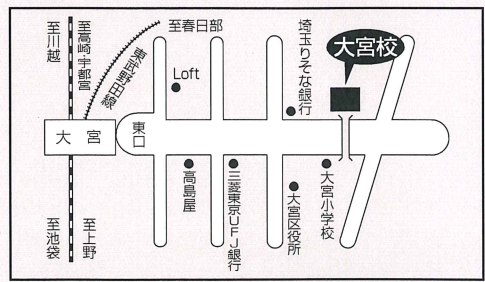
8月15日の敗戦を経て、「戦後の日本」が始まります。「現在」まで続くこの「戦後の日本」を、皆さんはどのように評価しますか。私たちの話を聞きながら、その点について考えていただけると嬉しいです。

炎に追われる
1945(昭和20)年1月27日
東京・銀座

6月30日(火) 17:30~19:00
大宮校 4G教室

入場無料
申込不要

〒330-0846 さいたま市大宮区大門町 3-67-2
☎0120-192-720
●JR・東武野田線/大宮駅東口より徒歩7分



※どなたでも自由に参加できます。